

第四回 日本薬局学会学術総会

イブニングセミナー

# 保険調剤薬局における 後発医薬品の選択



日時

2010年11月6日(土)  
18:20~19:20

会場

岐阜都ホテル  
ボールルーム1  
岐阜市長良福光2695-2

講師

岐阜薬科大学 実践薬学大講座  
実践社会薬学研究室 教授

座長

地方独立行政法人  
岐阜県立多治見病院  
薬剤部薬剤指導監

杉山 正 先生

新谷 俊一 先生

共催



共和薬品工業株式会社

# 保険調剤薬局における後発医薬品の選択 //

杉山 正

岐阜薬科大学実践社会薬学研究室・岐阜薬科大学附属薬局

後発品の最大のメリットは薬価の安さであり、後発品の普及は患者負担の軽減、医療保険財政の改善に資する。政府が平成19年に策定した「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」では、後発品に対する不安原因である安定供給、品質確保、情報提供体制の強化等について後発品メーカーに対して期限を定めて目標を設定し、患者さんや医療関係者が安心して後発品を使用できるよう、環境整備を図っている。

このような国、製薬会社の取り組みに加えて、薬剤師も患者さんに対して後発品について安心感を与える努力が必要である。「ブランド志向」が高いといわれる日本人にとって後発品に対する患者さんの不安は大きい。不安解消のためには、薬剤師からの説明も重要になる。数多くの後発品の中から薬剤師が厳選した医薬品であることを説明することも不安解消の一つの方法と考える。そのために、薬剤師は後発品を選択する基準を明確にすべきである。基準の例として、製薬会社の情報提供体制と品質管理体制の確認が挙げられる。無包装状態での安定性などの実際の医療で不可欠な情報を製薬会社に依頼し、提供された情報を検討するとともに提供体制についても評価する必要がある。

## 講師プロフィール

名 前	すぎやま ただし 杉山 正
職 業	岐阜薬科大学 実践薬学大講座 実践社会薬学研究室 教授
履 歴	昭和56年3月 岐阜薬科大学 卒業 昭和57年6月 岐阜大学医学部附属病院薬剤部 勤務 平成 7年4月 同 副薬剤部長 平成19年4月 岐阜薬科大学 教授(現職) 平成19年4月 岐阜大学大学院医学系研究科 非常勤講師(現職) 平成22年4月 岐阜薬科大学附属薬局 薬局長(現職)
役 職	平成 22年4月 岐阜県薬剤師会理事
専門分野	医療薬学,社会薬学,医薬品情報学
資 格	日本医療薬学会 認定薬剤師(平成11年 1月~) 日本医療薬学会 指導薬剤師(平成12年 1月~)
受 賞	平成19年度日本医療薬学会奨励賞
著 書	実習に行く前の覚える医薬品集(分担執筆) 診断・治療の進歩と新しい薬剤(分担執筆) など